

Raffiné Journal vol.04



ズレが残るとき

同じ動きでも、
わずかに合わないことがある。

整っているのに、
どこかだけが残る。

消そうとしても、
消えない。

そのずれは、
意図の外側にある。

あるパフォーマンスで、
同じように流し目が使われていた。

形は正確だった。
タイミングも、
音楽との位置も合っている。

けれどその一瞬だけ、
わずかなズレが残った。

強くはない。
指摘できるほどでもない。

それでも、
その部分だけが空気からわずかに浮いた。

消えずに、そこにあった。

同じ振付でも、
揃って見えないことがある。

形は同じでも、
どこかに差が残る。

その差は、
埋まらないまま残る。

最初から含まれているもののように、
そのまま置かれる。

意図が前に出た瞬間、
演出はわずかに硬くなる。

動きは正確でも、
そこだけ質感が変わる。

流れの中にあるはずのものが、
一度、切り離される。

ズレは、
大きく現れるわけではない。

むしろ、
ほとんど気づかれない。

それでも、
なぜかそこだけが残る。

消えずに、
そのまま置かれる。

形は揃う。
タイミングも合う。

それでも、
ズレだけは残る。

一致していないものは、
どこかに痕跡を持ったまま、
そのまま現れる。

消えずに、
そこにとどまる。

ズレは、消えずにそのまま残る。



R.

Raffiné Journal vol.04
2026

美学思想家
古川玲奈

発行：Raffiné